

1 単元名 ネット型ボールゲーム「テニピン」

2 単元の目標

- 基本的なボール操作の技術を身につけるとともに、ボールをよく見て動くことが出来る。
(知識及び技能)
- ゲームを進めていく中で、自分の考えたことを他者に伝えたりすることができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- テニピンに進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲良く運動をしたり、チームの仲間と対話したりしながら協力して学び合うことが出来る。
(学びに向かう力、人間性等)

3 基盤、4 単元計画は省略

5 授業の実際

(1) 繰り返し達成感を味わえるような、学習意欲を高める単元構成

授業に入る前に『テニピン』という競技がどういったものなのかを知るために、日本テニス協会が出している『テニピン』の動画を全員で視聴した。その際、「面白そう」や「早くやりたい」という声が多数聞かれた。しかし、中にはボール運動が苦手な児童もおり不安そうな表情も見受けられた。そのため単元構成については、小さいステップで児童が達成感をその時間ごとに味わえるように工夫した。

(2) 自己やチームの課題をもって学習に取り組める発問(教師の支援・かかわり)の工夫

児童が自己やチームの課題をもって学習に取り組むことが出来るために3つのことを行った。1つ目は、授業の始めに「今日の体育の授業ではどんなことを出来るようになりたい？」と投げかけることで、その時間の目標を立てさせることを行った。そうすることで最後の振り返りの時間に、この時間には何が出来て、何が出来なかったかということが明確になり、自分の今の課題が見つかりやすくなった。また、目標を見つけられない児童への支援として、みんながどういった目標を立てたのか意見共有を行った。2つ目は、実態把握をさせることである。基礎的なボール操作の技術をあげるためのスキルアップでは、自分の姿を客観的に見るためにタブレットで撮影をし、それを全員で視聴した。そこで、「上手い人って、どんなことをやっている？」と聞くことで、自分の動きと上手な人の動きを比較し、そこから自分はどうすればいいかということ個人個人に考えさせる時間をもたせた。それを考えた上で、スキルアップに取り組むことで回数が増え、フォームなどにも気をつけながら取り組むことが出来るようになっていた。また、ワークシートに毎回スキルアップや準備運動の回数を記入していたため、自分の成長を目で見て感じる事が出来ていた。3つ目は、アドバイスタイムや作戦タイムといった時間を取ることで、得点係、審判の人に、「ラケットの使い方、動き方はどうかな？後半戦や次の試合でどうしたらいいかな？」と投げかけた上で、ゲームを開始することで、アドバイスタイムや作戦タイムにつなげられるようなことを考えながらゲームに参加することが出来ていた。周りから見た自分がどう見えているのか、何をどうしたら良いかを話し合うことで、自分の課題と向き合い、解決する方法を児童たち自身が考え、実践することにつながっていたのではないかと考える。また児童を見ていると、ワークシートを上手く活用し、絵で書いて説明をして

いたり、身振り手振りを加えて教えたりしているチームもあり、ゲームを通して成長していく姿を見ることが出来た。



【壁打ちの様子】



【アドバイスタイム・作戦タイムの様子】

6 成果(○)と課題(●)

【成果】

○小さいステップの積み重ねで授業を進めていたため、達成感を味わえる回数が多く、児童のモチベーションにつながっていた。

○基礎練習を積み重ねることができたので、技能面の向上が見られた。そのため、みんなで試合を楽しむことができた。

○アドバイスタイムや作戦タイムを取り入れることで、友達のよかったところを見つけたり、自分ならどうするかということを考えたりしながら授業に参加することができた。そのため、スキルの向上や試合のおもしろさに繋がっていった。

【課題】

●ボールを打つという経験が少ない児童たちだったため、ボールを操れるようになるまでに時間がかかった。低学年からボールに慣れていって良いのではないかな。

●得点ゲームはダブルスで行ったが、学校で買われていたネットが本来の物よりも小さかったため、もう少し工夫して行う必要があった。試合中にどう動いたら良いかを考えるという点では、支援があまり出来なかったように感じるので、児童の技術を更に高めると共に、授業構成、時間配分などにも気をつけたい。